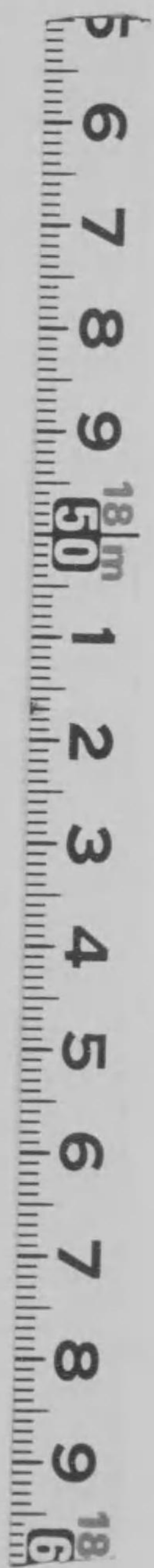


393

136

小湊案内

全



始



志望憲一著

小漢案内

393-136



吉野寛一著

小湊案内

發兌
小湊さかこ商店

大正
10. 3. 24
内交

はしがき

碧瑠璃の様な海、緑滴るる山に圍まれ
てをる秀麗で明媚な小湊は日蓮聖人御
誕生の地として更に一段の異彩を放つ
て居ります、交通機關の發達に供ひ此
の靈地を訪ふ者日に月に多きを加へ四
季參拜者の絶ゆる事なし、此地元より

名所、舊跡、靈寶、傳説等の傳ふべきもの多々ありまするが是れを精細に鑑賞研究すると謂ふ事は頗る容易の業にあらず故に日頃是れが簡單明瞭にして然かも携行に便なる案内記を需むるの聲隨所に起り吾人亦常に甚是れを遺憾とせり殊に況や目捷に逼れる七百年祭に當り夥しき參拜者あるべきを想

ひ只管其感を深ふす於之乎著者意を此處に用ひ不文短才を不顧急遽舊記を尋先輩に教を乞ひまして自から親しく來遊者に迎接説明するの想を採り最も平易簡單なる小冊を著し以て諸賢の案内者たらむとするの意に外ならず、元より簡缺粗雜の小冊子を以て満足を與ふるは難し、要は只聊かにても參考とな

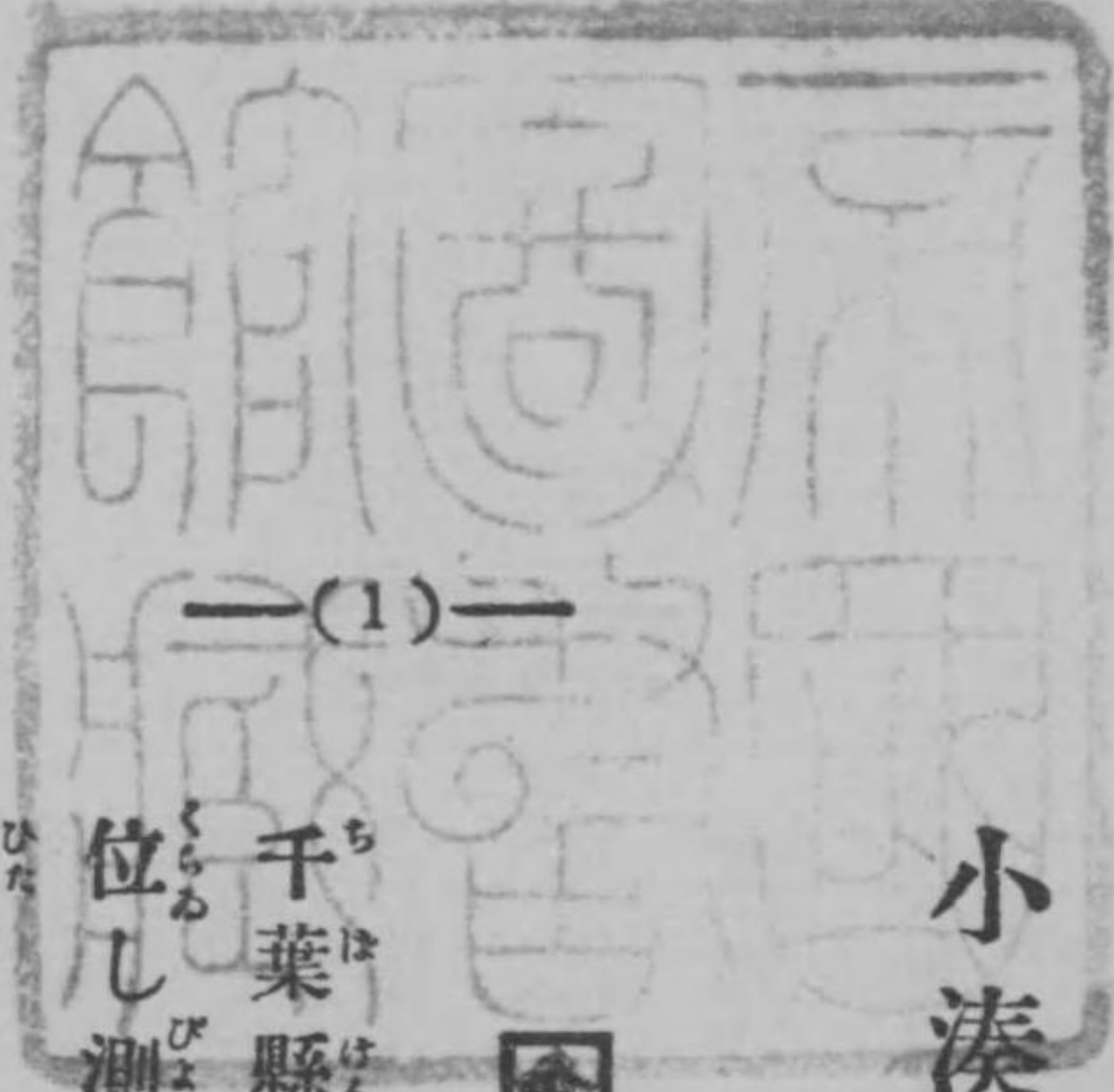
るに於て足る、讀者乞ふ赦せ。
於小湊丁字街頭 著者識す

目次

- 一、小湊
- 一、國歩艱難と偉人の出現
- 一、聖人御誕生と修學
- 一、開祖の大儀式
- 一、松葉ヶ谷の御難
- 一、流罪の御難

- 一、小松原の御難
- 一、龍の口御難
- 一、佐渡の流罪
- 一、身延山の隠栖
- 一、入滅
- 一、小湊山誕生寺
- 一、靈寶
- 一、誕生水

- 一、胞衣の松
- 一、小湊七不思議
- 一、蓮華潭
- 一、鯛の浦
- 一、庫裏客殿の建築と銅像の献立
- 一、妙日山妙蓮寺
- 一、靈山契約の本尊(御冠)
- 一、廣布梅



小湊案内

吉野寛一著

小湊

千葉縣安房郡小湊は房總半島の南端に
位し測茫萬里太平洋に面し洋々碧空を
浸す、背後直に峨々の峰列び連り山紫
水明風光絶佳なり、足跡一度此靈地を

.....(4).....

- 一、蘇生本尊及妙布
 - 一、蘇生櫻
 - 一、三體の尊像
 - 一、岩光山日蓮寺
 - 一、疵洗井戸
 - 一、血止の砂
 - 一、瑞光山高生寺
- 目次終

踏まば超然として世塵を蟬脱し敬虔の
 氣自から身邊に逼るを覺ゆ、港内は波
 靜かに碧瑠璃の如く清淨なり大小船舶
 の出入自由にして且つ風浪を避くる所
 謂避難港として將亦遠海漁場出漁の根
 據地として其名夙に高く近時殊に發動
 汽船の發達に供ひ伊豆、相模、房總沿
 線常陸等より漁船競ふて來航し橋本林

立頗る盛觀を極む、人情風俗誠に淳僕
 にして氣候亦極めて温和なり嚴寒時と
 雖華氏四十五六度、以上を示し盛夏時
 八十度乃至八十五度を出でず、主要物
 産を揚ぐれば、まぐろ、かつを、さば
 さめ、ひらめ、さんま、ゑび、いか、
 あじ、むつ等にして潑刺たる鮮魚を都
 人士の食膳に供する年額實に壹百萬圓

を降らす年次發展の狀況眞に隆々たるものあり、就中近來交通機關發達し房總線勝浦小湊間、定期自働車の發着あり低廉なる賃金を以て僅々數十分にして至り北條線北條小湊間亦自働車の發着あり、今や此の靈場を訪ふもの日に月に多きを加へ四時絶ゆることなし。

◆國步艱難と偉人の出現◆

凡聖賢偉人の出づるや偶然に非ず必ず由て來る所あり道德衰へ異端百出黎民歸する所を失ひたる時孔子、ソクラテス現はれ宗教思想混亂して民心適從する所を知らざる時、キリスト、佛陀、マホメット現はれ安心立命の途を啓き

たるが如き、或は佛蘭斯革命が、封建時代の積弊を破壊し新なる社會を組織せむとするに當り、ナポレオンなる一大天才を降したるが如き古今東西の歴史は殆ど符節を合する如きものあり。

彼の平安四百年の王朝は右府源の頼朝が鎌倉に覇を稱へて己來政權全く武人に歸し御烏羽上皇討幕の宣示空しく逐

に承久三年源家の陪臣虐賊北條義時により畏れ多くも十善の寶位を跡ませ給ふ、法皇を隱岐の孤島に流遇し給ひ建國既に二千歳千古未曾有の暴虐を敢行せり此時に當り朝野一人として、斯の國家的大攪亂に就て其の暴虐無道を絶叫する憂國の士無く大義名分全く地を拂ひ政治上、國體上正に一大危機に頻

せり。
 噫、誰か起て玉道復古の警鐘を亂打し
 此の危機を挽回せむ、世は正に混沌亂
 雜其の極に達し所謂聖賢偉人の出現を
 要する秋なりき。
 情々想ふに佛祖は末法の後五百歲如來
 の懸識に應じて出現すべき聖者あるべ
 きを豫言せり、偉哉維時末法の後二百

歲貞應元年二月十六日安房半島の淨地
 小湊の賤家に呱呱の聲を揚げたる善日
 鷹は廳て龍虎の風雲を捲起し世界人類
 の救主國體の擁護者として將亦思想界
 の先驅となり獅子奮進潮の如く寄せ來
 る迫害危難を突破し言論に、文章に實
 行に殆ど人事の何物をも投燼して國家
 社會の爲め一大革正の警鐘を亂打し以

て天地を振撼せり蓋し古來宗教史上高
徳名匠冀出せりと雖我日蓮聖人の如く
眞に國家を愛ひ人類の休戚に關する問
題を痛切に論究し國家を諫曉警告せる
もの一人もなし噫偉哉。

◆聖人御誕生と修學◆

貞應元年二月十六日佛滅の後二千百七

十一年朝小湊の漁家に御誕生幼名を善
日麿と稱へらる四條院天福元年十二歳
にして小湊を距る北二里海拔二千尺の
高峰千光山清澄寺に入り時の貫主善道
房に就き修學十六歳にして薙髮し是性
房運長と改名次て覇府鎌倉に遊學せら
る在鎌五年二十一歳の時清澄寺に歸省
「戒禮即身成佛義」を著す二十二歳日

本佛敎の大學院として學問の大叢淵たる叡山に入る在學十年建長五年三十二歲清澄寺に歸山。

◆開祖の大義式◆

建長五年四月二十八日朝清澄山頂旭の森に立ちたる聖人は燦爛たる旭光を浴び商無妙法蓮華經と高唱し開敎の宣誓

をなす、山頂に開敎の宣誓をなしたる聖人は寺坊に於て初女法話をなし「法華經己外は皆方辨假說にして佛祖の眞意法華經にあり念佛無間、禪天魔、眞言亡國、律國賦と絶叫す」念佛無間の言領主景信の怨に觸れ故郷を進放さる蓋し聖人活躍史の第一頁は景信の迫害により切つて落さる、三十二歲三度禪

府鎌倉に出で小庵を結び十字街頭の獅子吼を以て一世を警告し法戦を開く時に弟子日昭、日朝あり富木胤繼、四條金吾、進士善春、工藤吉隆、池上宗仲等あり、正嘉二年三十七歳の時『守護國家論』を著す、文應元年七月十六日『立正安國論』なる一大論文を草し公式に國家を諫曉す。

◆ 松葉ヶ谷の御難 ◆

立正安國論上書の後四十日八月二十七日之夜數千人の暴徒聖人の庵室を襲撃し遂に是れを焼燼し僅に身を以て免れ下總國富木氏の下に難を避く、鎌倉の草庵再び成るに及び聖人亦々鎌倉に入る。

◆ 流罪の御難 ◆

弘長元年五月十二日聖人四十歳の時捕縛せられ伊豆の國へ流刑せらる俎岩上に獨り御題目を唱へつゝありし折から漁夫彌三郎に救助せられ同人の伏屋に一ヶ月間潜伏次で伊豆伊東八郎右衛門方に三年間責付せられ弘長三年二月二

十六日赦免歸鎌す。

◆ 小松原の御難 ◆

文永元年十一月久瀨にて故郷小湊に歸省病母を慰め恩師を訪ひ歸途同年十一月十一日小松原に於て東條景信が伏兵に要撃され眉間に負傷弟子鏡忍房、工藤吉隆即死す、小湊岩高山に難を避け

清水を以て創傷を洗ひ砂岩を貼す、創
洗井戸血止の御砂養疵窟の名あり。

◆龍の口御難◆

文永八年九月十二日再度召捕はれ死罪
の宣告を受け龍の口の刑場に送らる途
中獄卒の爲め法華經第五卷及第八卷を
奪取さるゝ今や劍光一閃刑場の露と消

へなむとする刹那俄然電光閃々雷鳴轟
々太刀取卒倒近寄るものもなし。

◆佐渡の流罪◆

斷頭臺上の露と消ゆべき聖人は不思議
にも一死を得て相模の國依智本間氏邸
に一ヶ月間監禁十月十日依智出發佐渡
ヶ島に流さる文永十一年二月二十四日

赦免三月二十六日鎌倉へ歸還三度國家を諫曉す。

◆身延山隱栖◆

文永十一年六月十七日身延山へ隱栖す。

◆入滅◆

身延山に隱栖すること九年間既に入滅

の近きを自覺せる聖人は弘安五年九月八日身延山發足武藏の國池上に向はせられ同月十八日池上に御着十月十三日辰の刻遂に大聖者は聖壽滿元御齡六十一歳にして入滅せらる。

◆小湊山誕生寺◆

建治二年十月創建、境内坪數二萬一千

三百坪、寺格、日蓮宗大本山、祖師堂、
境内中央に安置す

間口十四間一尺八寸。

奥行十二間四尺五寸。

天保十三年三月再建立。

當山四十九世日闡師建設。

釋迦堂、間口六間奥行五間五尺、萬延

元年九月再建立、當山五十三世日琢師

建設、客殿、間口七間一尺奥行七間、
文化年中再建立、當山四十七世日濤師
建設。

書院、立關出仕門、長屋、庫裏住職居

室、誕生堂、三光堂、七面堂、龍王殿、

太田堂、寶藏、鐘樓誕生水井筒、樓門、

祖師堂水屋、朝師堂、妙見堂、清正堂

◆靈室□

建治御本尊

二幅

建治二年祖師堂棟上の時祖師身延山より當山日家上人に給る。

富木殿御消息

一幅

傳教大師御筆

一幅

三面大黒天(祖師御作)

一幅

琥珀觀世音像

一軀

當國主里見安房守獻納

香箱愛染

一個

聖德太子像

一軀

祖師御珠數(御受けの珠數)

小松原御難の時東條氏の太刀を受止し珠數

開祖日蓮聖人の靈像

一軀

聖人母堂の蘇生を祈り給ふ時に母堂の乞ひに因り當山二世日家上人之れを彫刻し聖人自から點眼す

釋尊靈像

一軀

聖人嘗て鎌倉弘通の砌松葉ケ谷草庵の看佛經なりしを當山三十九世日返師之れを遷座す(運慶の作)

十界本尊木像(水戸黃門 圓彌ノ獻納)

毘沙門天像(長辨僧都の作)

三寶詣尊(水戸彌獻納)

祈蘇生本尊(聖人御自筆)

八大龍王本尊(聖人海上安全を祈る爲め御自筆)

十界本尊(聖人御自筆)

富木殿の女房消息

一幅

聖人御自筆

傳教大師、弘法大師、明惠上人詩文

三筆合幅

水戸黄門光圀卿書簡

一幅

深草元政和歌

一幅

水戸卿へ日孝より送りたる詩

普賢菩薩古畫像

毘沙門尊像(兆殿司ノ筆)

一幅

蒔繪歎徳箱

一個

東福門院御歌

一首

妙照院御歌

一首

寶鏡(清正公本尊縁記一卷付)

像師御本尊

一幅

光子内親王一遍首題

一幅

御題目御自筆

親師御本尊

一幅

祖師御鏡

祖師の母堂に給ひしもの日光に照せ

ば御題目表はる

光明皇后御經五卷

藥王丸尊像

祖師十二、三歳の御姿

光明皇后御歌

紺地金泥首題塔

御題目にて五重塔形を書す

柏原院御筆

一軀

一首

一幅

一首

銀茶碗

銀湯沸

法華堂茶釜

唐津焼茶碗

以上四品水戸卿より日孝上人に給ふ

誕生堂御厨子

葵紋付水戸卿より獻進

誕生堂三字額(水戸卿ノ書)

二個

一個

一個

五個

三個

三個

一面

茶入(尾州大納言寄付)

一個

紺紙金泥書寫一部卷經

水戸卿自筆

紺紙金泥御經

施主津田越中守

書寫陀羅尼品

施主酒井飛驒守

書寫十韻

蘇生祖師(日家上人作)

一體

祖師御鏡臺

有栖川宮殿下より獻納せらる

海中出現鬼子母神

一體

三面具足七面大明神

一體

◆誕生水◆

祖師御出生の日庭前に忽然として泉水

噴出し滔々珠を飛して深く流る此の泉水を汲むて産湯となす、是即ち誕生水なり。

◆胞衣の松◆

祖師御降誕の節は誕生堂の傍にある小丘に御胞衣を納む丘上に松ありて此處に一社を祠る子安明神と稱す。

◆小湊七不思議◆

- 一、鯛の浦の鯛。
 - 二、高祖の墓石。
 - 三、叩く時は石にして金の音を發す。
 - 三、誕生水。
 - 四、雨降り櫻。
- 陰曆十月御會式頃開化

五、岩高山血止の砂。

疵薬として効験あり。

六、御兩親御墓の櫻。

清正公手植の櫻切断面蛇目現はる。

七、五色砂。

◆蓮華潭◆

鯛の浦の東方鷺ヶ峰の南麓に位し初聖

人の父貫名氏の居邸の舊地にして古へ
生寺の在りし所なり、潭の東西岸に
奇巖絶壁の辨天島あり巖頭辨財天を祠
る潭の底より褐色の蓮華藻生し今尙繁
茂す、祖師御降誕の節忽然白青の蓮華
班々とし華咲きたりと云ふ。

◆鯛の浦◆

祖師一日海濱に船を浮べ拂子を以て海上に髣髴目を書きたるに忽然波上に字體を現出し夥しき鯛、集り來り其の題目を悉く喫了せり故に世々此地の鯛を殺生するものなかりしかば夥しき鯛群棲するに至り從來七百年を數ふ現今伊貝ヶ島を中心として數十町の海面に亘り漁獲禁斷の法令發布せらる。

◆ 庫裏客殿の建築 ◆

銅像の献立 ◆

當山現貫主今井日誘師は夙に庫裏客殿の新築と祖師銅像献立を志し大正五年頃より雄大なる規模の下に數萬金を投じ工を起し從來五星想今や雙ながら工程全く成り新装を整へたる殿堂庫裏は

祖師一日海濱に船を浮べ拂子を以て海上に髯題目を書きたるに忽然波上に字體を現出し夥しき鯛、集り來り其の題目を悉く喫了せり故に世々此地の鯛を殺生するものなかりしかば夥しき鯛群樓するに至り從來七百年を數ふ現今伊貝ヶ島を中心として數十町の海面に亘り漁獲禁斷の法令發布せらる。

◆ 庫裏客殿の建築と

銅像の献立 ◆

當山現貫主今日誘師は夙に庫裏客殿の新築と祖師銅像献立を志し大正五年頃より雄大なる規模の下に數萬金を投じ工を起し從來五星想今や雙ながら工程全く成り新装を整へたる殿堂庫裏は

目捷めくしやうに逼せまれる聖人しやうにん七百年ななひゃくねんの祭典さいてんを雄々ゆうゆう静しづかに待まちつが如ごとく境内けいだいは更さらに一段だんの壯さう嚴げんを極きまむるに至いたる此この大工だいこう事を起おこし來きたるべき七百年ななひゃくねん祭さいの大典だいてんを施行しかうするに當あたり夙つひに敏腕びんわん果斷くわだんの師しとして矚目しよくめさるる高生寺かうしやうじ現住職げんぢやく兼けん誕生寺たんじやうじ執事しつじ本城瑞量ほんじやうづいりやう師しの努力どりよく大なるべきを想おもはしむるものあり。

◆ 妙日山妙蓮寺 ◆

聖人しやうにん慈父みふ妙日上人みやくにん延壽えんじゆ八十七歳はちじふしちさいにして逝去せいきよさる時ときに聖人しやうにんは鎌倉松葉ヶ谷かまくらまつはばがやに計か音を聞きき歸省きせいして謹修きんしゆ迫吊草庵おせうそうあんを此處こゝに結むすび母堂ぼだう妙蓮上人みやくれんしやうにんと共に修喪しゆさう一百日ひゃくにち間住かんぢゆしたり是こゝを兩親閣りやうしんかくと稱しやうす。

現世安穩後生善處の印文にして祖師片身として母堂に奉りしものなり。

◆靈山契約の本尊◆(御冠)

◆廣布梅及像塔◆

祖師自から梅枝を墳頂に植えたるもの廣宜流布梅と稱す亦梅枝の前に妙日上

人の塔及像を建立す。

◆蘇生本尊及妙符◆

母堂俄かに病重く息絶へたる時淨水を以て本尊を認め祈願讀經中妙布を調へ淨水にて口に灑げば忽然として蘇生す。

◆蘇生櫻◆

母堂母堂の蘇生蘇生を悦悦ばれ祖師祖師御手植御手植の櫻櫻なり。

◆ 祖師妙日妙蓮上人の

尊像 ◆

日靜上人蘇生祈願成就の松樹を以て一
刀三體の尊像を彫刻し堂宇を建立して
安置す。

◆ 岩高山日蓮寺 ◆

建治三年建立祖師小松原に於て東條景
信の爲め刃傷を受け難を此の山に避け
刃創を醫す此の時老婆あり自から被ふ
りし綿帽子を脱で祖師に奉り疵を覆ひ
岩窟に療養し給ふ即ち養疵窟並に祖師
の御像に綿帽子を着せ奉る由來なり。

◆ 疵洗井戸 ◆

岩高山南麓にあり祖師疵を洗ひし清水なり。

◆ 血止の砂 ◆

祖師疵口を清水にて洗ひ養疵窟の砂を貼して療養す。

◆ 光瑞山高生寺 ◆

建長五年祖師御歳三十二歳遊學既に十
二ケ年吾不肖なりと雖必ず一宗を開き
本化の利見を驗はさんと清澄山へ歸山
の砌り小湊の御兩親に御對面清澄山へ
赴き給ふ途すがら程遠からぬ寄浦と稱
する處より御館を拜し太陽の昇らせ給

ふを待ち御經を稱へたるに不思議や御
 題目の七字光明中に現はれたり是萬年
 救護の御本尊にして佛性出現の靈地な
 り是より此の地を天拜ヶ崎と呼び祖を
 朝日山と云ふ、日保上人祖師の尊命を
 拜し高祖天拜の御影を彫刻し之れを朝
 日開運の尊像と稱へ天拜ヶ崎に一字を
 建立し此れに安置す此の地は本尊永現

の光瑞朝天高らかに生じ給へば光瑞山
 高生寺と稱す。
 寛永十年高生寺を萩ノ巢に移す。

小湊案内終

小湊土產

鯉しほから
 鯛の浦磯の花
 木工細工
 名所繪葉書
 本堂全景
 鯛の塗物
 其他各種

(元賣發造製)

房州
 小湊
酒五商店

大正十年二月十月初
 大正十年二月十三日納
 本 版

(定價 金參拾錢)

不許複製

千葉縣安房郡湊村小湊五十四番地
 兼發行者 吉野寬 二
 東京市日本橋區蠣殼町三丁目十二番地
 印刷所 恭文社
 印刷人 窪田藏 二
 千葉縣安房郡湊村小湊五十四番地
 發行所 酒五商店

393
136

終

